

血液透析患者における血管内皮機能検査 (FMD : Flow Mediated Dilation) による評価

長崎腎病院 長崎腎クリニック

○田川秀明 飯野八朗 内野拓寿 宮崎健一 李嘉明 橋口純一郎 船越哲
原田孝司

【目的】

動脈硬化による心臓・脳血管障害は透析患者の重大な合併症であるが、動脈硬化の初期変化として血管内皮機能が低下することが知られており、血流依存性 FMD により簡便・非侵襲的に評価可能である。

【対象・方法】

今回我々は、当院透析患者の FMD を実施し、様々な因子との関連を検討した。

【結果】

当院の血液透析患者 43 名（男性 22 名/女性 21 名、DM18 名/非 DM25 名、平均年齢 64.9 才、平均透析年数 8.5 年）の FMD 値の平均は 3.1%で明らかに低値を示した。FMD 値 6%以上の正常者は 5 名（12%）で男性 1 名（0.5%）、女性 4 名（20%）と女性において有意に高く、DM 患者においては全ての患者で異常値を示した。また、年齢・透析年数及び頸部エコーにおける max-IMT と FMD 値は弱いながら負の相関が得られた。しかし、LDL-Ch 及び HDL-Ch とは関連を認めなかった。

【考察】

血液透析患者における FMD 値は DM 症例において低いものの、単純に評価できないことが示唆された。